

学びの実感

ことばのちからは 生きる力

順序よく整理して調べよう

◎昨日は、市川先生！授業づくり訪問お疲れ様でした。また、全校体制でしっかりと取り組むことができたことにも、改めてお礼をも上げたいと思います。先生方お疲れ様でした&ありがとうございました。

【事後検討会】

〈自評〉

- ・子供たちはよく集中していたと思います。
- ・教師が意図（求めていた）した「表や図」をもう少し押し進めたかもしれない。
- ・子供たちともう少しねらいや作業の進め方などを共通理解してから進めれば良かったと思う。
- ・自力解決に時間を取り過ぎたと思う。
- ・図や表の良さを児童が体感できるようなものにすれば良かったかも…。
- ・適用問題でしっかりと理解できたことが確認できた。
- ・今回の研究に取り組んで「授業者をやって良かった」「事前授業の大切さを改めて感じた」ことなど「大変勉強になりました。」



〈参観者から〉

	視点 1	視点 2	その他
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・フリップが良かった。 ・◎○△の評価が良かった。 ・教師の意図をしっかりとくんで活動できていた。賢い子供たちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「は、か、せ」の観点で吟味できたことが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究のリレーがつながっていた。(相互評価) ・教師の説明(落ちや重なりがないように等)が良かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートからフリップへ転記する必要性や時間的なロス等の問題。 ・見た目にも簡潔な表記方法を。 ・自力解決でのやること(指示)が多く、ぼやけてしまったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの児童に発表させると比較検討できたのではないか。 ・全体発表の際のフリップの完成度も大切ではないか(見やすさ・わかりやすさ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の時間がかかりすぎ。 ・作戦名をつける難しさ。 ・アナウンスの質や量。
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書くときのアナウンスを増やすのはどうでしょう。 ・図や表という言葉を入れた教師の導きがあると良かったのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況によって使い分けできるように、図や表のそれぞれの良さを理解させたり、使わせたりしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリップへの2度手間をなくすように。 ・単元によって作戦名が使いやすいものもある。十分に吟味が必要である。 ・教師が事前につけてみることも必要かも

◆奥田指導主事から◆

記録係の大泉先生ありがとうございました。

- これほど熱い検討会を初めて見た。アイデアを出し合う、認め合いの姿。
- 学年部での事前授業、本時のゴールを明確にして、逆思考。
- 授業者の気持ちと行動力（指導案の修正）
- 先生方が近くを通るときにフリップをずらす配慮
- ペア学習でのほほえましい姿
- 黒板に書いてあることを熱心に書き写す
- 指を使って何通りかていねいに確認
- 自力解決・・・（授業者）アナウンスよりも個別の支援を優先した。→支援をいくつも考えておいて、その時に応じて対応していく。少人数指導のときには、分からない子を集めて指導（ミニ黒板）
- 相互評価・・・取り組んだこと自体がすばらしい。自信につながる。評価する（書く）場所、色、一言添えるなど決めるのも良い。学習感想の中に友達の良かったところも書かせて紹介するのも○
- 学び合い・・・フリップに書いてほしい部分を教師がペンで囲んであげる。→「ここを書いてね。」継続した取組。
- 教えること、考えさせること・・・（例）キーワードをしっかりと教える、しっかり引き出すのどの場面か、明確にする。
- 作戦名・・・①教師が、児童の立場で問題を解いてみる。
②近い考えを紹介する。
③色々な表現を出し、その後でより良い表現を話し合う
- 気がついたこと、似ていることを出させる。教師が別な色でフリップに書きこむ。
- 「数学的思考力」とは・・・帰納的 演繹的 類推的に考えること。
一般化 単純化 統合化 抽象化すること。

☆数学的思考力を育てていきましょう。

それは…

・帰納的
・演えきの
・類推的

・一般化・単純化
・総合化・抽象化
・発展的・特例化
・具体化・絵図化
・式化
していくこと…

・困ったら『サポート訪問』を利用を。
・問題解決型と習得活用型の両立を。

☆習得活用型とは、既習事項を活用して課題解決を図らせることによって、学習内容・学び方・学んだことの生かし方等を習得させ、さらに、それを活用して問題の解決にあたらせる。このようにして思考力・表現力を高めることを目指す授業

※ここで言う活用は単なる適用問題に取り組みさせるということだけではなく、既習事項を活用して「自力解決→小集団交流活動→全体での話し合い→まとめ→適用問題課→振り返り」という一連の課題解決にあたることを指す。

【課題のリレー】（有効・・・○ 課題・・・●）

- 相互評価の継続化
- 導入部分の精選と時間短縮
- 教師が事前に実践し、児童に実態に合わせて授業を組み立てていく。

次回の授業は…

1 2月9日(月) 4校時 5年1組 川村学級

「面積の求め方を考えよう」

学年部授業ですが、できるだけ見合いましょう。